

授業科目 小児科学

【担当教員名】 和田 有子		対象学年	2	対象学科	作業
		開講時期	前期(隔週実施)	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【一般目標：G10】 子どもの最大の特徴は成長するということである。お腹の中でも出生後も、発育と発達を続け、今日ではできなくとも明日はできるかもしれないという可能性を持つ。小児のリハビリテーションはそのような成長の途中で、日常生活、社会生活の中に生じる「不便」に対して、何らかの工夫をすることで「生活の質の向上」を図るものである。個々の子どもに最適な方法を選択するためには、発達・発育、病気・外傷から心の問題、母子保健、教育に至るまで、多様な角度からの見方ができなければならない。小児科学では、この考えに従って、総合的な子どもに対する知識を習得し、小児のリハビリテーションに活用できる能力を養い、学び続ける姿勢を身につけることを目的とする。					
【行動目標：SB0】 1 正常小児の発育・発達、生理、栄養、しくみ等を理解する。 2 小児の成長・発達を評価できる。 3 小児の異常や疾患を簡潔に説明できる 4 小児特有の問題点を理解し、解決方法を提示できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	小児の発育・発達（運動発達、精神発達を含む）			1、2、4	講義
2	胎児・新生児・未熟児と周産期医療			1-4	講義、確認テスト有り
3	小児の栄養、先天異常・遺伝病（奇形症候群）			1	講義、確認テスト有り
4	小児救急（事故と外傷、応急処置）、母子保健と子育ての問題（虐待を含む）			3、4	講義、確認テスト有り
5	神経系疾患、筋・骨系疾患、重症心身障害児、療育・教育の問題			1-4	講義、確認テスト有り
6	循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・代謝疾患			1-4	講義、確認テスト有り
7	血液疾患、感染症、腫瘍性疾患、発達障害、心身症			1-4	講義、確認テスト有り
8	消化器疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、免疫、アレルギー疾患、感覚器疾患、子どものリハビリテーション			1-4	講義、確認テスト有り
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		標準理学療法学・作業療法学 専門分野 小児科学 第 富田豊 編 医学書院 2009・4,410 円 3版 コメディカルのための専門基礎分野テキスト 小児科学 外間登美子 中外医学社 2005・3,780 円			
その他の資料		講義内で適宜プリント配布			
【評価方法】 出席・受講態度（3％程度）、提出課題・確認テスト（40％程度）、試験成績（60％程度）を目安として、総合的に判断、評価する。			【履修上の留意点】 解剖学、生理学等の基礎が習得されているものとして講義を行うので、よく勉強しておくこと。毎回の課題に対して、講義、プリント、教科書だけでは課題を解くことが出来ないの各自で参考書を調べるなどして学習することが必要となる。課題提出は締め切り厳守。また、確認テストが評価に大きく影響するので、課題を活用して復習を怠らないこと。		